

身体部位を表す方言語彙の表示システム 第2報

Learning System for Dialect Words Denoting Human Body Parts, 2nd Report

北村 達也+・篠本 尚輝++・今村 かほる*・岩城 裕之**

KITAMURA Tatsuya+・SASAMOTO Naoki++・IMAMURA Kahoru*・IWAKI Hiroyuki**

甲南大学・甲南大学学部生++・弘前学院大学*・高知大学**

Konan University+

Undergraduate student, Konan University++

Hirosaki Gakuin University*

Kochi University**

〒658-8501 神戸市東灘区岡本 8-9-1+

t-kitamu@konan-u.ac.jp+

Abstract: When non-native clinical nurses and care workers provide care to native Japanese speakers, the use of dialect words denoting human body parts and physical symptoms might create communication barriers between them. We have thus developed a system that indicates dialect words corresponding to body parts on PCs and tablets. The system displays an illustration of the head and entire body (front and back sides); dialect words pop up and corresponding speech sounds play when a user clicks or taps on a body part. This system will help both non-native workers and native Japanese people who are unfamiliar with the dialect.

キーワード：方言、看護、介護、身体部位、経済連携協定

1. はじめに

経済連携協定（Economic Partnership Agreement, EPA）により日本語を母語としない看護師や介護福祉士が日本国内にて就労するようになった。しかし、彼ら/彼女らが日本語母語話者の介護や看護に従事する場合、身体部位やその症状を言い表す方言語彙の理解が難しく、方言がコミュニケーションにおける障壁となっている。

今村ら（2015）は看護研修生、介護研修生入国者を対象とした自記式アンケート調査を実施した。その結果、看護研修生の88%、介護研修生の75%が方言を理解できず困った経験を有していると報告している。

この問題は、必ずしも非日本語母語話者と日本語母語話者との間にのみ生じるものではない。日本語母語話者同士であっても出身地や世代の違いにより方言が障壁となり得る。しかし、現時点では医療・福祉関係者（日本語母語話者、非日本語母語話者）が手軽に利用できる方言検索システムや方言学習システムはほとんど存在しない。

そこで、我々は前報（山本ら、2016）にてタブレットやPCから直感的に利用できる方言語彙表示システムのプロトタイプを報告した。このシステムは、今村ら（2014）の方言支援ツールに基づいたものである。画面上に表示された身体部位のイラスト上の部位を指定すると、対応す

る方言語彙がポップアップ表示される。したがって、利用者は直感的な操作で方言語彙にアクセスすることができる。

前報の発表時に、このシステムに対していくつかのフィードバックが得られた。第1は方言語彙に対応する音声を出力する機能の要望であり、第2は非日本語母語話者のために訳語を表示する機能の要望であった。そこで、本研究では、これらの機能を追加するとともに、システム全体に改良を施した。

2. 提案システム

本システムは、タブレットやPCにて直感的な操作によって身体各部位の方言語彙を知るためのものである。本研究では、OSごとにシステムを開発することを避けるため、いわゆるアプリとしてではなく、ホームページとして作成した。このシステムは、webブラウザから利用できるため、インターネットに接続できる情報端末であればOSに依らず利用できる。

このシステムのホームページにアクセスすると、まず地区を選択するページ（図1）が表示される。このページには日本地図が地方ごとに色分けされて表示され、利用者はマウスクリックもしくはタップにより、「地方 → 都道府県 → 地区」の順に選択する。日本地図の表示には、jQueryのJapan Mapプラグイン（Takemaru Hirai氏開発）を利用した。



図1 地域選択画面 (jQuery の Japan Map プラグインによる日本地図表示)



図2 提案システムの表示例 (青森県弘前市, 男性)

利用者が地区を選択すると、図2に示すように、画面上部に地区が表示され、その下に全身 (前面、背面) および顔面のイラストが表示される。このイラストでは、方言語彙が登録されている部位がグレーの円で示されている。この円の上にマウスカーソルを置くと、図3のように対応する方言形がポップアップ表示される。したがって、利用者は直感的な操作で方言形にアクセスすることができる。

さらに、その円をクリックすると、その方言形に対応する音声提示される。この音声は、当該方言の話者に1単語ずつ発音してもらい、ICレコーダーにて収録したものである。この音声提示機能により、利用者はリアルな方言音声を聴取することができる。また、文字で表記することが難しい音声を持つ方言の場合、リアルな音声情報は重要である。これは、医療・福祉関係者にとって、とりわけ非日本語母語話者にとって大いに役立つ情報である。ただし、本稿執筆段階では、音声提示機能はごく一部の地域でのみ実現されているにとどまっている。

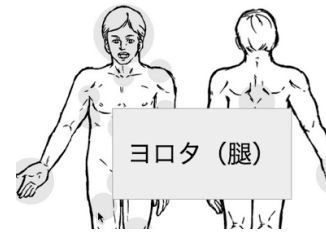


図3 方言語彙の表示例 (日本語)



図4 方言語彙の表示例 (インドネシア語)

イラストの右側には地域選択 (図1) に戻るための日本地図のアイコンと、表示言語を選択するための国旗アイコンが配置されている。本稿執筆時点では、表示言語として日本語 (図3) とインドネシア語 (図4) が選択できる。日本語からインドネシア語への翻訳は、川村らが構築し、公開しているチュウ太の web 辞書 Ver. 1.4.17.31465 を利用した。

3. おわりに

本研究では、方言語彙表示システム (山本ら, 2016) に対するフィードバックに基づいて、このシステムに音声提示機能および表示言語の切り替え機能を追加した。加えて、地区選択を直感的に行えるように改良した。本研究ではごく一部の地区の音声のみ収録されているが、全国の方言音声をいかにして収集するかが大きな課題である。

付記

本研究の一部は科研費 (15H03219) および私立大学等経常費補助金特別補助「大学間連携等による共同研究」の支援を受けて行われたものである。

参考文献

- 今村かほる・井上諭一・岩城裕之・工藤千賀子・武田拓・友定賢治・日高貢一郎 (2014) 『医療・看護・福祉と方言』 <<http://hougen-i.com/>> (2016.8.15 閲覧)
- 今村かほる・岩城裕之・中島祥子・工藤千賀子・武田拓・友定賢治・日高貢一郎 (2015) 『災害対応のための方言活用システムと方言ツールの開発』 (科研費報告書)
- 山本悠人・北村達也・岩城裕之・今村かほる (2016) 「身体部位を表す方言語彙の表示システム」『日本語教育方法研究会』 Vol. 22, No. 3, pp. 56-57